

令和6年度シラバス(第一看護学科)

28期生 3年次

授業科目	文化人類学	担当教員	安溪 貴子	単位	1	学習時間数	30
目的	文化の多様性を学ぶ。						
目標	1 世界の人々の暮らしを知ることによって、人間を特定の価値観から自由にする。 2 「違う」の中にみる「同じ」を知る。 3 世界の民族の生活を比較研究し、人類の文化の多様性を理解する。						
回	項目	内 容			教授学習方法	備 考	
1-2	文化人類学入門	1 異文化との出会い 2 フィールドワーク フィールドワークとは。 フィールドワークに出かけるとき フィールドとのつきあい方、礼儀作法			講義 DVD		
3-4	違ってることの認め合い	1 異文化に触れる。 2 思いこみからの脱却 違っていていることを認める。人権尊重 誰だって人間 人類最大の文化遺産-それは栽培植物			講義 VTR		
5-6	癒しとは	1 本当の癒しとは：最先端の医療の中の癒し 2 文化によって異なる癒し 3 治療と癒し 4 南の島の癒し たった一人のナースステーション			講義 VTR		
7-8	豊かさとは	1 豊かさとは何か。 2 文化の多様性と植物の多様性から考える「豊かさ」 アフリカの森の豊かな暮らし 持続的な焼き畑と森林を破壊する焼き畑もどき アフリカの女性の料理の世界 塩と砂糖だけで作る料理			講義 VTR スライド		
9-10	文明社会の盲点	1 私たちが忘れていたこと 「環境学入門」から、近代科学文明の光と陰 2 土と文明 土を滅ぼして文明が減びる。 Video「カルタゴ」			講義 VTR		
11-12	命のつながり	1 女性の目・アジアの目 人とサルの間：猿学の研究史を追う。 医療の実験の中の動物の権利 ウサギやネズミは痛くない？ 世界の酒を巡って アジアでみた発見			講義 VTR		
13-14	生き方を選ぶ自由	1 生き方を選ぶ自由と楽しみ 人と自然と神様と 沖縄の生活にみる日常の神 土に生きる-今ここで希望を語る。 日本の森を守ることは、世界の森とそこに住む 命を守ること			講義 VTR		
15	試験	筆記試験					

評価：レポート 800～1,200字 ①これまでの考えが変わったきっかけ(60点)

具体的知識の正確さや豊かさ(30点) 独自の表現力(10点)

参考文献：島からのことづて 安溪遊地・安溪貴子著 芦書房 2000

令和6年度シラバス(第一看護学科)

28期生 3年次

授業科目		地域・在宅看護援助論2 (在宅における看護実践)	単位	1	学習時間数	30
担当教員		実務経験	主な実務経験場所			
	稲葉 紫保 (28)	(有)・無	山口県立総合医療センター			
	非常勤講師 (2)	有・無	備考参照			
目的	在宅で求められる訪問看護技術及び在宅における医療管理を要する人の看護を学ぶ。					
目標	1 在宅における生活援助技術について理解する。 2 在宅における医療管理を要する人の看護が理解できる。					
回	項目	内 容		教授学習方法	備考	
1	訪問マナー	1 在宅における訪問時の基本的なマナー		講義/演習	波多野医院 波多野 加保理	
2	暮らしを支える 看護技術	1 暮らしの場で看護をするための心構え (1) 地域・在宅看護実践とは (2) 地域・在宅看護実践に欠かせない要素 2 セルフケアを支える対話・コミュニケーション (1) 対象者と看護師のパートナーシップ (2) 対象者と看護師の対話・コミュニケーション 3 地域・在宅看護における家族を支える看護 (1) 家族のアセスメントのポイント (2) 家族の支援 (3) 家族支援の例		講義/DVD		
3		4 地域・在宅看護における安全をまもる看護 (1) 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 (2) 地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント (3) 地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント		講義/DVD		
4		5 地域における暮らしを支える看護実践 (1) 療養環境調整に関する地域・在宅看護技術		講義/DVD		
5		(2) 活動・休息に関する地域・在宅看護技術				
6		(3) 食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術				
7		(4) 排泄に関する地域・在宅看護技術				
8		(5) 清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術				
9		(6) 苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術				
10		(7) 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術				
11		(8) 創傷管理に関する地域・在宅看護技術				
12		(9) 与薬に関する地域・在宅看護技術				
13		技術演習	1 褥瘡管理・ストーマ管理 2 移動(体位変換)・片麻痺入浴体験		演習	演習後レポート
14	3 気管内吸引・気管切開部の管理 4 在宅中心静脈栄養法 5 経管栄養法(胃瘻)					
15	試験					

評価の方法:筆記試験(80点)・演習参加状況・レポート(20点)

テキスト : 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論2 医学書院
写真でわかる 訪問看護アドバンス インターメディカ

令和6年度シラバス(第一看護学科)

28期生 3年次

授業科目		地域・在宅看護援助論3 (在宅看護の展開・地域看護活動)	単位	1	学習時間数	30
担当 教員		実務経験	主な実務経験場所			
	稲葉 紫保：(20)	有・無	山口県立総合医療センター			
	非常勤講師(10)	有・無	備考参照			
目的	在宅で生活する療養者とその家族に、訪問看護を実施するための展開方法を学ぶ。また、地域看護の実際を学ぶ。					
目標	1 在宅看護における看護過程を理解する。 2 在宅における生活支援の方法と技術を理解する。 3 地域看護を担う関連機関の役割・機能を理解する。					
回	項目	内 容			教授学習方法	備考
1	訪問時のコミュニケーション	1 訪問時のコミュニケーション			講義/DVD	
2	地域・在宅看護の展開	1 地域・在宅看護における看護過程 (1) 看護過程とその意義 (2) 地域・在宅看護における看護過程の基本 (3) 地域・在宅看護における看護過程の展開 2 地域・在宅看護過程の展開方法 (1) 地域・在宅看護過程の特徴 (2) 地域・在宅看護過程における情報収集とアセスメント (3) 地域・在宅看護過程における看護目標の設定・計画 (4) 地域・在宅看護の実施と評価 (5) 地域・在宅看護過程をさらに発展させる視点 (6) 地域・在宅看護の標準化に向けた取り組み			講義	
3	地域・在宅における 時期別の看護	1 健康な時期の看護 2 外来受診期における看護 3 入院時の看護 4 在宅療養準備期(退院前)の看護 5 在宅療養移行期の看護 6 在宅療養安定期の看護 7 急性増悪期の看護 8 終末期の看護(グリーフケア) 9 在宅療養終了期の看護			講義	
4	地域・在宅看護の 事例展開	1 事例を学ぶにあたって			協同学習	
5		2 脳卒中の療養者の事例展開				
6		3 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の療養者の事例展開				
7		4 筋萎縮性側索硬化症(ALS)の療養者の事例展開				
8		5 パーキンソン病の療養者の事例展開				
9	6 認知症高齢者の事例展開			協同学習 /演習		
	7 がん終末期の療養者の事例展開					
	【演習】在宅看護過程を展開し、訪問看護を行う					
	1 段階：情報の整理・アセスメント			講義	訪問看護ステーション陽向 看護師：阿武由美子	
	2 段階：看護計画立案					
	3 段階：訪問計画作成・援助計画作成					
	4 段階：グループ演習(ロールプレイング)					
	5 段階：発表					
10・11	訪問看護の実際	訪問看護の実際			講義	
12・13	地域看護活動	健康福祉センターの機能と役割、活動概要			講義	萩健康福祉センター 保健師：福田敦子 大庭麻沙子
14		市保健センターの機能と役割			講義	萩市保健センター 保健師：石川京子
15	試験	筆記試験				

評価の方法：筆記試験(60点)・演習参加状況・レポート(40点)

テキスト：系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実際 地域・在宅看護論2 医学書院
 系統看護学講座 専門基礎8 公衆衛生 医学書院
 写真でわかる 訪問看護アドバンス インターメディアカ

令和6年度シラバス(第一看護学科)

28期生 3年次

授業科目	老年看護援助論3 (高齢者に起こりやすい疾患と治療別看護)	単位	1	学習時間数	30
担当教員	高島 雄太：(30)	実務経験	①・無	主な実務経験場所 山口県立こころのセンター	
目的	治療過程における高齢者の看護を学ぶ。				
目標	1 健康障害のある高齢者の看護を理解する。 2 治療を必要とする高齢者の看護を理解する。 3 終末期にある高齢者とその家族への看護を理解する。				
回	項目	内容	教授学習方法	備考	
1	老年期にみられる疾患と症状の看護	1 運動機能障害のある高齢者の看護 (1) 大腿骨頸部骨折	講義		
2		2 排泄機能障害のある高齢者の看護 (1) 前立腺肥大症			
3		3 神経・精神機能障害のある高齢者の看護 (1) パーキンソン病			
4		4 身体防御機能障害のある高齢者の看護 (1) インフルエンザ (2) 感染性胃腸炎 (3) 肺炎			
4~6		5 看護過程の展開			
7	老年期の治療過程における看護	1 受療形態に応じた高齢者への看護 (1) 外来診療時の看護 (2) 入院時の看護 (3) 検査時の看護 (4) 手術療法時の看護	講義		
8		(5) 退院計画と退院時の看護			
9		2 薬物療法を受ける高齢者の看護 (1) 加齢に伴う薬物動態の変化 (2) 服薬管理とリスクマネジメント (3) 薬物療法時の看護			
10		3 リハビリテーションを受ける高齢者の看護			
11		4 介護家族への看護 (1) 介護家族の特徴 (2) 適応に向けた支援			
12	終末期にある人とその家族への看護	1 高齢者の死 (1) 死のとらえかた (2) 死亡の動向 a 死因・b 死亡場所	講義		
13・14		2 エンドオブライフケア 3 高齢者の死に関わる権利 (1) リビングウィル (2) アドバンスディレクティブ (3) 意思決定の支援			
13・14		4 高齢者の終末期看護の実践 (1) 苦痛の緩和 (2) 快適な生活のための援助 (3) 家族への援助 a 介護への支援・グリーフケア b デスカンファレンス	講義・DVD視聴		
15	試験	筆記試験			

評価の方法：筆記試験(100点)

テキスト：北川公子他：系統看護学講座 専門分野 老年看護学，医学書院

鳥羽研二他：系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論，医学書院

令和6年度シラバス(第一看護学科)

28期生 3年次

授業科目	小児看護援助論2 (健康障害をもつ小児と家族への看護)		単位	1	学習時間数	30
担当教員	篠田由佳里	実務経験	有・無	主な実務経験場所	山口県立総合医療センター	
目的	健康障害をもつ小児とその家族への看護を学ぶ					
	1 急性期にある小児と家族の看護を理解する 2 慢性期にある小児と家族の看護を理解する 3 疾患や障害をもち、さまざまな状況にある子どもと家族の援助を理解する					
回	項目	内容			教授学習方法	備考
1・2	急性症状のある小児と家族の看護	1 急性期の特徴 2 発熱時のアセスメントと看護 3 脱水時のアセスメントと看護 4 呼吸困難時のアセスメントと看護 5 感染症の小児の基本的看護			講義	
3・4	周手術期にある小児と家族の看護	1 子どもの手術の特徴 2 手術を要する健康障害と手術の時期 3 緊急手術 4 計画手術 5 日帰り手術 6 子どもと家族の準備状態の把握とプレパレーション 7 子どもの安全・安楽への援助と家族への援助 8 退院への指導・援助と継続看護			講義	
5・6・7	継続的に治療を必要とする小児と家族の看護	1 代謝性疾患を有している小児と家族の看護 2 腎疾患を有している小児と家族の看護 3 先天的な問題をもつ小児と家族の看護			講義	
8・9	リハビリテーションを必要とする小児と家族の看護	1 けいれん時のアセスメントと看護 2 進行筋ジストロフィーの小児と家族の看護 3 脳性麻痺の小児と家族の看護			講義	
10・11	終末期にある小児と家族の看護	1 小児の死についてのとらえ方 2 デスエデュケーション 3 インフォームド・コンセント インフォームド・アセント、QOL 4 痛みに対する看護 5 家族の看護			講義	
12	ハイリスク新生児と家族の看護	1 低出生体重児の特徴 2 ハイリスク新生児の集中治療ケア 3 親子、家族関係の促進			講義	
13・14	緊急処置を要する小児の看護	1 小児の緊急におけるトリアージと対応 2 子どもの事故の特徴とその要因 3 事故防止と安全教育 4 不慮の事故 5 頭部外傷 6 誤飲・誤嚥 7 溺水 8 熱傷 9 蘇生法			講義	
15	試験	筆記試験				

評価の方法：筆記試験

テキスト：系統的看護学講座 小児看護学1・小児看護学2 (医学書院)

参考文献：発達段階からみた小児看護過程 (医学書院)

令和6年度シラバス(第一看護学科)

28期生 3年次

授業科目		母性看護援助論3 (ライフステージに応じた看護)	単位	1	学習時間数	30
担当 教員		実務経験	主な実務経験場所			
	田中 里紗：(24)	有・無	山口県立総合医療センター			
	非常勤講師(6)	有・無	備考参照			
目的	女性及びその家族のライフステージにおける健康の維持・増進、疾病の予防のための看護を学ぶ。					
目標	1 女性のライフステージにおける身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2 女性の生涯をとらした健康問題と看護について理解する。 3 リプロダクティブヘルスにおける健康問題とその看護を理解する。 4 母性看護における多職種連携について理解する。					
回	項目	内 容		教授学習方法	備 考	
1	女性のライフステージ各期の特徴と看護 リプロダクティブヘルスケア	1 思春期の健康と看護 (1) 思春期女性の特徴 (2) 健康問題 ・月経異常、性感染症(STI)、妊娠 (3) 思春期女性への看護の視点		講義		
2・3		2 性成熟期の健康と看護 (1) 性成熟期女性の特徴 (2) 健康問題 ・月経随伴症状、月経困難症 ・生殖器疾患 (3) 性成熟期女性への看護の視点		グループワーク		
4		グループワーク発表		グループワーク		
5		(4) 家族計画		講義 グループワーク		
6		(5) 不妊治療と看護 ・不妊とその原因 ・不妊検査、治療 ・不妊治療を受けている患者の心理・社会的特徴 ・不妊夫婦の看護		講義 グループワーク		
7		(6) 性暴力を受けた女性に対する看護		講義 グループワーク		
8		3 更年期の健康と看護 (1) 更年期女性の特徴 (2) 健康問題 ・更年期障害 ・尿失禁 ・骨粗鬆症 (3) 更年期女性への看護の視点		講義 グループワーク		
9		母性に対する災害看護・国際化社会と看護	1 災害時の母性看護 2 在日外国人の母子保健			講義 グループワーク
10・11		健康教育演習	1 初経教育 2 家族計画 3 喫煙妊婦への禁煙指導 4 妊婦に必要な健康教育 5 更年期症状のある女性への指導 6 骨盤底筋群訓練 グループワーク発表			グループワーク
12	母性看護学における 多職種連携	1 ハイリスク妊産褥婦及び新生児への心理的関わり 2 多職種との連携		講義	山口県立総合医療センター 臨床心理士： 山野上典子	
13		1 遺伝カウンセリングとは 2 遺伝カウンセリングを受ける人への関わり 3 多職種との連携		講義	山口県立総合医療センター 認定遺伝カウンセラー： 大下真美	
14		地域における母子とその家族の看護の実際	1 地域における子育て支援		講義	萩市保健センター 保健師：塩満ゆかり
15	試験	筆記試験				

評価の方法：筆記試験(80点)、グループワーク内容(20点)

テキスト：系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [1] 母性看護学概論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院

令和6年度シラバス(第一看護学科)

28期生 3年次

授業科目		精神看護援助論2 (症状別看護)	単位	1	学習時間数	30
担当 教員		実務経験		主な実務経験場所		
	堂端 竜志 : (28)	○有・無		山口県立こころの医療センター等		
	非常勤講師 : (2)	○有・無		備考参照		
目的	精神障害が対象の日常生活に及ぼす影響を理解し、障害を抱えながら生活する対象及びその家族への看護を学ぶ					
目標	1 精神障害が日常生活に及ぶ影響を知り、その看護を理解する。 2 精神に障害のある対象及び家族に対する看護過程の展開を理解する。 3 精神に障害のある対象の家族への援助を理解する。 4 精神科医療における訪問看護の実際を理解する。					
回	項目	内 容		教授学習方法	備 考	
1	精神に障害のある患者の看護	1 幻覚、妄想、せん妄状態の患者の看護		講義		
		2 興奮状態の患者の看護				
2		3 抑鬱・躁状態の患者の看護				
		4 自殺・自傷行為がある患者の看護				
3		5 拒絶的な患者の看護				
		6 ひきこもり状態の患者の看護				
4		7 意欲減退状態の患者の看護				
		8 操作をする患者の看護				
		9 発達障害のある患者の看護				
5		10 睡眠障害のある患者の看護				
		11 摂食障害のある患者の看護				
6		12 不安状態にある患者の看護				
		13 強迫行為のある患者の看護				
7		14 依存状態のある患者の看護				
		15 離脱症状のある患者の看護				
8	患者の看護過程の展開	1 統合失調症の患者の看護過程		グループワーク 講義		
9		(1) 急性期の看護				
10		(2) 慢性期の看護				
11	退院促進への援助	1 退院促進への援助		講義		
12		(1) 退院調整 (2) 社会資源				
13	社会的側面に注目した援助	1 家族への関わりと支援 2 社会復帰・社会参加の基本 3 精神科デイケア・訪問看護 4 困難事例に関する行政との連携		講義		
14	精神保健福祉センターの役割	1 精神保健福祉センターの位置づけ 2 精神保健福祉センターの組織構成 3 精神保健福祉センターの業務		講義	精神保健福祉センター保健師：佐野佐恵美	
15	試験	筆記試験				

評価の方法：筆記試験

テキスト：医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学1・2

令和6年度シラバス(第一看護学科)

28期生3年次

授業科目		看護の統合と実践3 (看護管理・看護研究)	単位	1	学習時間数	30
担当 教員		実務経験	主な実務経験場所			
	藤井 早苗 (10)	有・無	山口県立総合医療センター			
	稲葉 紫保 (16)	有・無	山口県立総合医療センター			
	非常勤講師 (4)	有・無	備考参照			
目的	看護管理の基礎的知識を理解する。 看護研究のプロセスを理解する。					
目標	1 看護をマネジメントできる基礎的知識を理解する。 2 病院における看護管理を理解する。 3 看護研究のプロセスを理解する。 4 自ら行った看護をケーススタディとしてまとめ、発表をする。					
回	項目	内 容		教授学習内 容	備 考	
1	看護とマネジ メント	看護管理の定義 看護管理学の基本的要素 これからの看護職に求められるマネジメント		講義 協同学習	藤井 早苗 はしがき 5、6回資料持参	
2	看護ケアのマ ネジメント	看護ケアのマネジメントのプロセス 看護ケアのマネジメントにおける看護職の機能・役割 チーム医療 日常業務の実践(日常業務のマネジメント)		講義 協同学習		
3	看護サービスの マネジメント	看護サービスのマネジメントの対象と範囲 組織目的達成のマネジメント 看護の組織化 看護単位の機能と特徴 看護ケア提供システム 人材のマネジメント 労働環境		講義 グループ ワーク		
4	看護職としての セルフマネジ メント	看護職のキャリア形成 タイムマネジメント ストレスマネジメント		講義 協働学習		
5	マネジメントに 必要な知識と技 術 看護を取り巻く 諸制度	組織構造と組織原則 リーダーシップとマネジメント 医療制度 医療保険制度 医療費支払システム 看護ケア の対価		講義 演習(コ ミュニケー ションスキ ル)		
6-7	病院における 看護管理2	病院における看護部門・看護組織 看護単位とその運営 看護部職員の職責 ワークライフバランス 交代勤務		講義	長門総合病院認定 看護管理者: 花島まり 大田富美代	
8	ケーススタディ 1	ケーススタディの意義 ケーススタディの進め方と概略		講義	稲葉紫保 担当教員に指導を 受けながら進める	
9-10	ケーススタディ 2	ケーススタディ文献検索 ケーススタディの研究テーマの決定		講義/演習		
11-12	ケーススタディ 3	ケーススタディの修正 (研究的視点・考察の妥当性など)		演習		
13~15	ケーススタディ 4	ケーススタディを規定時間内に発表し、質疑応答を受ける。 ケーススタディの発表会に参加し、質問により共有の学び とする。		発表会		

評価の視点: 筆記試験等 演習態度 提出物状況含む(管理50点)

: 演習態度・看護研究・ケーススタディの内容・発表会での評価点(研究50点)

テキスト : 管理: 看護学概論 医学書院

研究: 松本孚・森田夏美 編 わかりやすいケーススタディの進め方 照林社

令和6年度シラバス(第一看護学科)

28期生 3年次

授業科目	看護の統合と実践4 (知識と技術の統合)	単位	1	学習時間数	30
担当 教員	実務経験		主な実務経験場所		
	田中 里紗	有 無	山口県立総合医療センター		
	篠田 由佳里	有 無	山口県立総合医療センター		
目的	1 模擬患者の状況・状態を判断し、患者に配慮しながら看護を実践できる。 2 チームで複数の模擬患者を受け持ち、状況・状態を判断し、複数患者に配慮しながら看護を実践できる。				
目標	1 複数の課題に対して、患者の状態に応じた看護の優先順位を考えた計画を立案する。 2 時間的制約の中で患者の状況・状態に応じた看護を実施する。 3 突発的に起こる課題に対して、判断し、安全に対応する。 4 チームで情報交換を行い、協働して看護を実践する。 5 演習をとおして、自己の課題を明確にする。				
回	内 容		教授学習方法	備 考	
1	1 オリエンテーション (1) 教員の紹介 (2) 演習のねらい及び学習内容の説明 (3) OSCEについて(目的、目標、意義、試験の進め方、学生の動き) (4) 事例紹介 (5) 事例に基づく看護過程の展開 関連図・データベースアセスメント・問題リスト・看護計画の作成		オリエンテーション グループワーク		
2	1 事例に基づく筆記試験(知識の確認) 2 看護診断の発表会		試験・発表会		
3	1 プレOSCE (1) グループで課題を考え、OSCEに即した方法で演習を行う。		演習		
4	1 OSCE (1) 自己の看護実践能力評価 2 リフレクション		試験		
5	1 まとめ (1) 演習を通して学んだことの明確化 (2) 学びの発表及び意見交換		発表会		
6~7	1 オリエンテーション (1) 演習のねらい及び学習内容の説明 (2) 演習の進め方、評価方法 (3) 事例紹介 (4) グループ編成 2 事例患者の各疾患について学習		オリエンテーション グループワーク		
8	1 クラスで行動計画の発表及び質疑応答 (1) 他のグループとの相違点から根拠及び行動計画の見直し		発表会		
9	1 行動計画に基づいた実施 (1) 原理・原則に基づいた技術 (2) 安全・安楽に配慮した援助		演習		
10	1 行動計画に基づいた援助の確認 2 行動計画の修正		演習		
11~12	1 プレ演習 2 演習のオリエンテーション (1) 演習の準備 (2) ローテーション (3) 演習後の動き(リフレクションについて)		演習		
13~14	1 事例のその日の状況提示(必要時、行動計画の修正) 2 演習の実施 (1) 予期しない患者の反応、突発的な事態、時間の切迫 3 リフレクション (1) 状況の捉え方、情報の分析、自分の行動の意味 (2) 状況と対応の分析 (3) 自己の課題の明確化		試験		
15	1 まとめ (1) 演習を通して学んだことの明確化 (2) 学びの発表及び意見交換		発表会		

評価の方法: OSCE (40) レポート(10) 試験(10)
 複数受け持ち演習(30) レポート(10)

授業科目	成人・老年看護学実習	担当 教員	村上 陽子 堂端 竜志 高島 雄太	開講 年次	2年次前期 ～3年次前期	単位数	8	時間数	各 90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	成人・老年期にある対象を理解し、健康の各段階にある対象及びその家族に対し看護ができる基礎的能力を養う。								
目標	<p>1 成人・老年期にある対象を、身体的・精神的・社会的側面から理解する。</p> <p>2 成人・老年期にある対象の健康上の課題を判断し、解決に導く方法を学ぶ。</p> <p>3 成人・老年期にある対象の健康段階・障害の程度・治療過程に応じた看護の必要性を認識し、看護に必要な技術を身につける。</p> <p>4 対象の生命の尊厳と人格を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。</p> <p>5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。</p> <p>6 継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として、看護の役割を理解する。</p> <p>7 成人・老年看護学実習をとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。</p>								
実習計画	<p>1 成人老年看護学実習1(看護の思考過程を学ぶ実習) 2年次 別紙参照</p> <p>2 成人老年看護学実習2(急性期) 2年次前期～3年次前期 別紙参照</p> <p>3 成人老年看護学実習3(回復期) 2年次前期～3年次前期 別紙参照</p> <p>4 成人老年看護学実習2(慢性期・終末期) 2年次前期～3年次前期 別紙参照</p>								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	成人看護学概論、成人看護学各テキスト、老年看護学概論、老年看護 病態・疾患論 資料								

令和6年度シラバス(第一看護学科)

授業科目	成人・老年看護学実習2 (急性期)	担当 教員	村上陽子	開講 年次	2年次後期 ～3年次前期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	急性期にある対象を理解し、生命の維持、健康回復・保持増進を援助する力を養う。								
目標	<p>1 周術期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。</p> <p>2 周術期にある対象の健康上の課題を判断し、解決に導く方法を身につける。</p> <p>3 対象の健康段階、障害の程度、治癒過程に応じた支援を学ぶ。</p> <p>4 周術期にある対象の生命の尊厳と人格を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。</p> <p>5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。</p> <p>6 健康回復に向けて継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。</p> <p>7 周術期にある対象及び家族との関わりをとおしてその人らしい生活を支える看護について考える。</p>								
実習計画	<p>1 実習期間 11日間</p> <p>2 実習施設 長門総合病院 西2階病棟・手術室</p> <p>3 実習方法</p> <p>手術を受ける患者を受け持ち、看護過程を展開し、周手術期に必要な看護を行う。 受持ち患者の手術を見学する。</p> <p>(1) 実習オリエンテーション(実習2日目)</p> <p>(2) 初期計画検討会(実習4日目頃、または術後3日目頃)</p> <p>(3) テーマカンファレンス(実習7～8日目頃)</p> <p>事例をもとに、実習指導者とカンファレンスを行う。</p> <p>(4) 学びの会(実習10日目)</p> <p>情報共有を行い、学びを深める。</p> <p>(5) 学内学習日</p> <p>(実習1日目頃)</p> <p>対象理解を深めるため、疾患や治療の学習を行う。 事例に合わせた技術練習を行う。</p> <p>(実習11日目)</p> <p>実習の経験を振り返り、自己の学びをまとめる。文献等でエビデンスを確認する。 グループで情報共有し、学びを深める。</p>								
評価方法	<p>実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。</p>								
テキスト	<p>成人看護学概論、臨床外科看護総論、臨床外科看護各論、成人看護学各テキスト、周術期看護、老年看護学概論、老年看護 病態・疾患論、資料</p>								

令和6年度シラバス(第一看護学科)

授業科目	成人・老年看護学実習3 (回復期)	担当 教員	堂端 竜志	開講 年次	2年次後期 ～3年次前 期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	回復期にある対象を理解し、障害受容と生活の自立を支援する力を養う。								
目標	<p>目標</p> <p>(1) 回復期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。</p> <p>(2) 回復期にある対象の健康上の課題を判断し、解決に導く方法を身につける。</p> <p>(3) 回復期にある対象の健康段階、障害の程度、治癒過程に応じた支援を身につける。</p> <p>(4) 回復期にある対象の生命の尊厳と人格を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。</p> <p>(5) 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。</p> <p>(6) 健康回復に向けて継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。</p> <p>(7) 回復期にある対象及び家族との関わりをとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。</p>								
実習計画	<p>実習計画</p> <p>1 実習期間 11日間</p> <p>2 実習施設 長門総合病院 3階病棟</p> <p>3 実習方法</p> <p>回復期にある患者を受け持ち、看護過程を展開し必要な看護を行う。</p> <p>(1) 実習オリエンテーション(実習2日目)</p> <p>(2) 初期計画検討会(実習4～5日目頃)</p> <p>全体関連図・看護診断・看護計画を提示し検討する。</p> <p>(3) テーマカンファレンス(実習7～8日目頃)</p> <p>事例をもとに、実習指導者とカンファレンスを行う。</p> <p>(4) 学びの会(実習10日目)</p> <p>情報共有を行い、学びを深める。</p> <p>(5) 学内学習日</p> <p>(実習1日目)</p> <p>対象理解を深めるために、疾患や治療の学習を行う。</p> <p>事例に合わせた技術練習を行う。</p> <p>(実習11日目)</p> <p>実習での経験を振り返り、自己の学びをまとめる。文献等でエビデンスを確認する。</p> <p>グループで情報共有し、学びを深める。</p>								
評価方法	<p>評価方法</p> <p>実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。</p>								
テキスト	<p>テキスト</p> <p>成人看護学概論、臨床外科看護総論、臨床外科看護各論、成人看護学各テキスト、老年看護学概論、老年看護 病態・疾患論、資料</p>								

令和6年度シラバス(第一看護学科)

授業科目	成人・老年看護学実習4 (慢性期・終末期)	担当 教員	高島 雄太	開講 年次	2年次後期 ～3年次前 期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	慢性期・終末期にある対象を理解し、健康の各段階にある対象を支援する力を養う。								
目標	<p>1 慢性期・終末期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。</p> <p>2 慢性期・終末期にある対象の健康上の課題を判断し、解決に導く方法を身につける。</p> <p>3 慢性期・終末期にある対象の健康状態や生活環境に応じた支援を身につける。</p> <p>4 慢性期・終末期にある対象の生命の尊厳と人権を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。</p> <p>5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。</p> <p>6 継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。</p> <p>7 慢性期・終末期にある対象及び家族との関わりから、その人らしい生活を支える看護について考える。</p>								
実習計画・方法	<p>1 実習期間 11日間</p> <p>2 実習施設 長門総合病院 4階病棟 透析室</p> <p>3 実習方法 慢性期・終末期にある患者を1人受け持ち、看護過程を展開し必要な看護を行う。</p> <p>(1)実習オリエンテーション(実習2日目)</p> <p>(2)初期計画検討会(実習4～5日目頃) 全体関連図・看護診断・看護計画を提示し、検討する。</p> <p>(3)テーマカンファレンス(実習7～8日目頃) 事例をもとに、指導者とカンファレンスを行う。</p> <p>(4)学びの会(実習10日目) 情報共有を行い、学びを深める。</p> <p>(5)透析室実習(0.5日間) 血液透析と透析室看護の実際を見学する。</p> <p>(6)学内学習日 (実習1日目) 対象理解を深めるため、疾患や治療の学習を行う。 事例に合わせた技術練習を行う。</p> <p>(実習11日目) 実習での経験を振り返り、学びをまとめる。文献等でエビデンスを確認する。 グループで情報共有し、学びを深める。</p>								
評価方法	<p>実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。</p>								
テキスト	<p>成人看護学概論、成人看護学各テキスト、老年看護学概論、老年看護 病態・疾患論、資料</p>								

令和6年度シラバス(第一看護学科)

授業科目	小児看護学実習	担当 教員	篠田由佳里	開講 年次	2年次後期 ～3年次前 期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	小児の成長・発達を理解し、健康な小児と健康を障害された小児及びその家族に看護ができる基礎的能力を養う。								
目標	<p>1 小児の成長・発達段階、健康状態、及び小児を取り巻く環境を理解する。</p> <p>2 小児の成長発達段階をふまえ、その子と家族のもつ力を引き出す看護を説明する。</p> <p>3 小児の成長・発達及び健康状態に応じた基礎的看護技術を身につける。</p> <p>4 小児の生命の尊厳と人権を尊重し、看護専門職として小児及び家族と援助関係を形成する基礎的能力を身につける。</p> <p>5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。</p> <p>6 小児と家族を取り巻く保健・医療・福祉・教育との連携を知り、多職種間における看護の役割を理解する。</p> <p>7 実習をとおして、その子らしい生活を支えるためのより良い看護とは何か探究し続ける能力を身に付ける。</p>								
実習計画	<p>1 実習期間 11日間</p> <p>2 実習施設 長門総合病院 3階病棟 小児外来 萩市椿保育園 萩市保健センター</p> <p>3 実習方法 実習ラウンド表に基づき、それぞれの実習場所に分かれ、実習を行う。</p> <p>(1)学内にて実習オリエンテーションを受ける。</p> <p>(2)病棟実習(3日間) 原則一人の患児を受け持ち、必要な看護を実施する。</p> <p>(3)小児外来実習(3日間) 外来で行われている処置、検査、治療を見学し、必要な援助を行う。 診察、乳児健診、予防接種の見学と介助を行う。</p> <p>(4)保育園実習(2日間) 乳幼児(0～6歳)の各クラスで、デイリープログラムに沿って児と関わる。</p> <p>(5)保健センター実習(1日間) 保健センターで行われる母子保健事業(乳幼児健診、健康相談等)に参加し、小児の成長発達の実態と家族の育児支援、他職種との連携を見学する。</p> <p>(6)学内学習日(2日間) (実習1日目) 小児の事例を基にシミュレーションを行う。 DVDの視聴を行い、保育園と多職種連携の学びを深める。 (実習11日目) 実習での学びをまとめ、文献等でエビデンスを確認する。 まとめたものを基に情報共有と学びを深める目的で全体学習会を行う。</p>								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	系統的看護学講座 小児看護学1・小児看護学2、根拠と事故防止から見た小児看護技術、看護のための人間発達学								

令和6年度シラバス(第一看護学科)

授業科目	母性看護学実習	担当 教員	田中里紗	開講 年次	2年次後期 ～3年次前期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	妊娠・分娩・産褥各期及び新生児期にある対象の特徴を理解し、母子とその家族に必要な看護ができる基礎的能力を養う。								
目標	<p>1 妊娠・分娩・産褥各期及び新生児期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。</p> <p>2 妊婦・産婦・褥婦・新生児(胎児)の状態を根拠に基づいて解釈・分析し、必要な看護を考察する。</p> <p>3 妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な看護を身につける。</p> <p>4 妊婦・産婦・褥婦・新生児(胎児)及びその家族の生命の尊厳と人権を尊重し、看護専門職として援助関係を形成する基礎的能力を身につける。</p> <p>5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。</p> <p>6 母性看護における継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として、看護師の役割を理解する。</p> <p>7 母性看護学実習をとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。</p>								
実習計画	<p>1 実習期間 11日間</p> <p>2 実習施設 長門総合病院 3階病棟、産婦人科外来</p> <p>3 実習方法 実習ラウンド表に基づき、学生1～2名でそれぞれの実習場所に別れ、実習を行う。</p> <p>(1)実習オリエンテーション(実習2日目)</p> <p>(2)褥室(4～5日間) 褥婦1人を受け持ち、看護過程を展開し必要な看護を行う。</p> <p>(3)分娩室(1日間) 分娩見学をとおして分娩期の看護に関する知識・技術を学ぶ。</p> <p>(4)新生児室(2～3日間) 新生児1人を受け持ち、日数に応じた経過をたどっているかアセスメントし、必要な看護を行う。 新生児の看護やハイリスク新生児に関する知識・技術を学ぶ。</p> <p>(5)産婦人科外来(1日間) 2人の妊婦を受け持ち、妊娠経過をアセスメントし、必要な看護を行う。</p> <p>(6)テーマカンファレンス(実習第2週目) 事例をもとに、指導者とカンファレンスを行う。</p> <p>(7)学びの会(実習10日目) 情報共有し、学びを深める。</p> <p>(8)学内学習日 (実習1日目) 対象理解を深めるため、学習を行う。 沐浴技術試験やシミュレーションを行う。 事例に合わせた技術練習を行う。</p> <p>(実習11日目) 実習での経験を振り返り自己の学びにまとめる。文献等でエビデンスを確認する。 グループで情報共有し、学びを深める。</p>								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	母性看護学概論、母性看護学各論、資料								

令和6年度シラバス(第一看護学科)

授業科目	精神看護学実習	担当 教員	堂端 竜志	開講 年次	3年次後期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	精神障害の特性を理解し、精神に障害のある対象及び家族に看護できる基礎的能力を養う。								
目標	<p>1 精神に障害のある対象及び家族を理解する。</p> <p>2 精神に障害のある対象の健康上の課題を明らかにし、解決につながる方法を学ぶ。</p> <p>3 対象の精神障害に応じた援助技術を身につける。</p> <p>4 精神に障害のある対象の人格を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。</p> <p>5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。</p> <p>6 精神保健・医療・福祉における看護師と多職種との役割・連携を理解する。</p> <p>7 精神看護学実習をとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。</p>								
実習計画	<p>1 実習期間 11日間</p> <p>2 実習施設 山口県立こころの医療センター 社会福祉法人ふたば園 障害福祉サービス事業所なないろ</p> <p>3 実習方法</p> <p>(1)実習オリエンテーションを受ける。(実習2日目)</p> <p>(2)テーマカンファレンス(病棟毎)(実習4～5日目頃) 事例をもとに、実習指導者とカンファレンスを行う。</p> <p>(3)保護室見学</p> <p>(4)デイケアの見学</p> <p>(5)事業所の見学(実習5～7日目頃)</p> <p>(6)学内学習日 (実習1日目) 治療環境についてグループワークや拘束体験を行う。 (実習11日目) 実習での経験を振り返り、自己の学びをまとめる。文献等でエビデンスを確認する。 病棟グループごとに学びをまとめ発表する。情報を共有し、学びを深める。</p>								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	精神看護学各テキスト、資料								

令和6年度シラバス(第一看護学科)

授業科目	地域・在宅看護論 実習	担当 教員	稲葉紫保	開講 年次	1年次前期 3年次後期	単位数	3	時間数	135
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	<p>地域で生活するあらゆる人々を多角的に捉え、その人らしい生活を基盤とし、状態に応じた看護が提供できる基礎的能力を養う。</p>								
目標	<p>1 在宅で生活している人とその家族を理解する。 2 在宅で生活している人への看護の実際を身につける。 3 在宅で生活している人とその家族への対応を身につける。 4 在宅でその人らしい生活を支援する社会資源について理解し、ケアマネジメントの実際を知る。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 地域における保健医療福祉活動を知り、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を理解する。 7 地域・在宅看護論実習をとおして、その人らしい生活を支えるためのより良い看護を探求し続ける能力を身につける。</p>								
実習計画	<p>1 コミュニティ実習 1年次 別紙参照 2 在宅看護論実習 3年次 別紙参照</p>								
評価方法	<p>実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。</p>								
テキスト	<p>地域・在宅看護論</p>								

令和6年度シラバス(第一看護学科)

授業科目	在宅看護論実習	担当 教員	稲葉紫保	開講 年次	3年次後期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	地域で生活する人、療養する人とその家族の暮らしを理解し、状況・状態に応じた看護ができる基礎的能力を身につける。								
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域で暮らす人とその家族の生活環境、生活状況を理解する。 2 地域で療養する人とその家族の健康状態、生活状況に応じた日常生活援助、医療管理の実際を理解する。 3 在宅で生活している人とその家族への対応を身につける。 4 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 5 保健医療福祉活動の実際を知り、多職種連携・協働をとおして、切れ目のない支援について理解する。 6 在宅看護論実習をとおして、その人らしい生活を支えるためのより良い看護を考える。 								
実習計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習期間 11日間 2 実習施設 <ul style="list-style-type: none"> 訪問看護ステーション 地域医療福祉連携室 居宅介護支援事業所 地域包括支援センター 認知症高齢者グループホーム 3 実習方法 <p>実習ラウンド表に基づき、グループに分かれ実習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)実習開始時、施設のオリエンテーションを受ける。 (2)実習終了時、各施設で振り返りまたはカンファレンスを行う。 (3)地域医療福祉連携室(1日間) (4)居宅介護支援事業所(1日間) (5)訪問看護ステーション(5日間) (6)地域包括支援センター(1日間) (7)認知症高齢者グループホーム(1日間) (8)学内学習(実習期間2日) <ul style="list-style-type: none"> 訪問看護の訪問計画の立案、文献検索及び在宅看護技術の演習を行う。 グループで実習での学びをまとめ、文献等でエビデンスを確認する。 全体学習会で情報共有し、学びを深める。 								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	地域・在宅看護論								

令和6年度シラバス(第一看護学科)

授業科目	統合実習	担当 教員	田中 里紗 篠田由佳里	開講 年次	3年次後期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	既習の知識・技術・態度を統合し、看護管理の実際及びチームの一員としての看護を経験し、看護実践に必要な基礎的能力を養う。								
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 複数の受け持ち患者の状態を理解し、患者に行われている看護の優先順位がわかる。 2 チームで複数の受け持ち患者の状態・状況に応じた看護を実施する力を身につける。 3 病棟の看護管理の実際を知る。 4 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 5 その人らしい生活を支えるために、保健医療福祉チームの中で連携・協働して行われている看護の役割と継続看護について理解する。 6 統合実習をとおしてチームの一員として自己の課題を明確にする。 								
実習計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習期間 11日間 2 実習施設 長門総合病院 西2階病棟、3階病棟、本館3階病棟、4階病棟、5階病棟 3 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> (1)実習オリエンテーション(実習1日目) (2)複数受け持ち実習(5日間) 学生チームで複数の患者を受け持ち、看護を実施する。 患者カンファレンス(実習6日目頃) 看護計画・看護の方向性を指導者と確認する。 (3)同行実習 <ol style="list-style-type: none"> 看護管理者同行(1日間) 病棟管理者に同行し、管理の実際を見学する。 看護チームリーダー同行(1日間) チームリーダーに同行し、業務の実際を見学・介助する。 看護チームメンバー同行(1日間) チームメンバーに同行し、業務の実際を見学・介助する。 (4)学習会(実習11日目) 病棟グループごとに学びをまとめ発表する。情報を共有し、学びを深める。 								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	各看護学のテキスト、資料								

